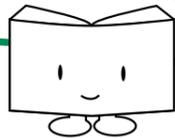


つやまっ子に贈る100冊の本



つやまっ子読書プランキャラクター「ぶつくちゃん」

みんなに勇気と希望を
与えてくれる



推薦者

田村 洋子さん(領家)

平成10年10月、津山市にも大きな被害をもたらした台風10号。吉井川の濁流にさらわれた一頭の子牛が、牧場から90kmも離れた瀬戸内海の黄島で生きて発見されました。当時、この奇跡は人々の心に希望の明かりをともしました。

その実話に基づいて制作されたのが『きせきの子牛』です。このお話には「命の大切さ」「自然災害の恐ろしさ」「未来に向かって生きる力強さ」といったメッセージが込められています。実際にあったことを題材に、多くの地元の人々が制作に携わって生まれたこの作品。本当にすばらしい作品なのでもっ

と皆さんに知ってもらいたいですね。かわいらしい子牛の絵、繊細な色使い、深い意味が込められた言葉の一つひとつ…。特に、生きることへの強い思いが描かれた最後の場面はとても感動的です。

発行から10年がたち、目にする機会が少なくなっているかもしれませんが、ぜひとも読み継いでいってほしいと思っています。



「きせきの子牛」
津山市教育委員会

図書館が遠いので、高野が河辺の辺りにもう1つ図書館があったらいいなと思います。(草加部・女性)

いつも図書館をご利用いただきありがとうございます。
現在、市内にはアルネ・津山4階にある市立図書館本館と、地区館として加茂町図書館・勝北図書館・久米図書館の計4館があります。
また、図書館から遠い地域に住んでいる人には、市内各



地を定期的に巡回する自動車文庫「ぶつくまる」を利用してもらっています。

「ぶつくまる」には約4300冊の本が積まれており、本の借り受けや返却ができます。事前に電話やEメールで読みたい本をリクエストしてもらえば、用意することもできます。そして、返すときは「ぶつくまる」はもちろん、どの図書館でも返却することができます。

草加部の近くでは、成名小学校や清泉小学校、高野公民館に「ぶつくまる」が訪問します。
自動車文庫「ぶつくまる」のルートや訪問日については、本紙「とよかん」コーナーに毎月掲載していますので、自宅に近い訪問先を確認して、ぜひご利用ください。



問い合わせ先 市立図書館
TEL 24・2919、Eメール
toshokan@vt.ne.jp

きらめく津山人

子どもたちに考古学を伝えたい

岡山縄文の会 代表

前原 泰二さん(北園町)



独学で縄文土器の研究を行い地域の小学校などで土器づくりの指導をする傍ら、岡山大学大学院社会文化科学研究科(考古学)新納教授の依頼を受け、弥生時代の土器(特殊器台)の復元に取り組む前原泰二さんにお話を伺いました。

縄文土器に興味を持ったきっかけは？

弱冠16歳、海軍飛行練習生として終戦を迎えたわたしは「日本の伝統はどうなるのか、日本はどのように変わっていくのか」といった虚脱感を抱えて日々過ごしていました。

昭和34年『日本の伝統』(岡本太郎著)という本に出会いました。そこに掲載されていた縄文土器を見た時、その造形と文様に魅了されたのです。それ以来、復元してみたいという衝動に駆られ、仕事をしながら縄文土器の研究を行ってきました。

もちろんわたしは専門家ではありません。しかし人に頼らず何事も自分で実行することにこだわってきました。

苦労したことは？

縄文土器の製法研究は史料も乏しく専門の研究者もあまりいません。何度も失敗を繰り返しながら粘土と砂の混合比や野焼きの方法を調整・工夫し、やっと野焼きで焼成しても割れない土器が作れるようになりました。

土器づくりの指導も広く行っていますね

研究を進めていくうち、知り合いの小学校の先生から「子どもたちに土器づくりの指導をし

てほしい」と依頼があり、子どもたちへの指導を始めました。そうした中、土器づくりの会を作ってほしいという声が多く寄せられ、平成11年11月「岡山縄文の会」を結成。県南の小学校などにも多く指導に行くようになりました。

平成12年、新納教授から依頼を受け、岡山大学文学部考古学専攻の学生に縄文土器復元実習の指導を4年間行い、若い世代へわたしの研究の成果を伝えていきます。

活動を続ける思いと今後の目標は？

小学生に土器づくりの指導を行っていくうち、できる限り子どもたちにかかわっていくことがわたしの使命だと思ふようになりました。わたしが指導した子どもたちの中から将来の考古学者が一人でも出てくれれば、わたしたち「岡山縄文の会」が行ってきた活動は意義のあるものとなるでしょう。

「岡山縄文の会」も結成10年を経過し、今は規模を小さくして活動を行っています。わたしがこうして活動を続けることができるのも、周りの人たちがわたしの必要としてくれていること



▲(左)特殊器台の図面(右)復元作業に取り組む前原さん

と、何よりわたしの妻の理解と全面的な協力があったことと感謝しています。

現在、岡山市の榑築弥生墳丘墓から出土した特殊器台という土器(高さ約120cm)の復元作業を行っています。国内でも最大級の土器の復元となるので身の引き締まる思いです。わたしの研究の集大成となるよう、取り組んでいます。

岡山県古武道連盟相談役など多方面で活躍の前原さん。取材の日(8月6日)から特殊器台の復元作業を開始し、10月には完成予定とのこと。完成が待ち遠しいですね。